



広報

なは 市民の友

第691号 毎月1回発行
2008年(平成20年)

8月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 (株)近代美術

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2008(平成20)年6月末現在	
総人口	315,925 (2,082)
男女	152,233 (1,078)
	163,692 (1,004)
世帯数	132,018 (1,265)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	94,057
真和志	104,205
首 里	58,152
小 祿	57,429



「ふるさとづくり寄付金」贈呈の様子

みんなで「なは」の未来を考えよう

7月8日は「なはの日」

7月8日が語呂合わせで「なは」と読めることから、この日を「なはの日」と定め、多くの人が那覇について語り、那覇のことを思い、那覇を愛し、那覇のために何ができるかを考え、那覇を再認識しよう。7月8日はさむ数日間、「なはっていいよね」を合い言葉に、市内各地で様々な催しが開催されました。

なかでも、「なはの日」に那覇バスで行く日帰りミニツアー「バスツアー」や久茂地公民館のプラネタリウムで行われた「なはの星空観望会」には、定員を大きく超える親子連れを含む市民が訪れ、一人ひとりが「那覇」に想いを寄せながら、イベントを楽しみました。

また、同日夜にパレット市民劇場で行われた「なはのまちを考えるフォーラム」には、多くの来場者が訪れ、翁長市長の協働のまちづくりについての講演の外、NPO法人の代表者や自治会関係者、事業者、翁長市長による、パネルディスカッションが行われ、今後の那覇市のまちづくりを考える機会となりました。フォーラムの最後には、今年から創設された「ふるさとづくり寄付金」の贈呈式が行われ、福岡ソフトバンクホークスの新垣渚投手と市建設コンサルタント業連絡協議会から「子どもたちがスポーツに触れる機会が多く持てる事業へ」、「人材育成に」役立ててほしいと、寄付金の目録が翁長市長へ手渡されました。

主な紙面

2	「なは」はあなたの応援を待っています
3	「健康なは21」食の環境づくり事業
4	「なはの日」の7月8日(火)に、パレット市民劇場において「なはのまちを考えるフォーラム」が開催され、多くの市民のみならず、事業者や自治会のみならず、市の関係者など多くの人が会場を訪れました。
5	このフォーラムでは、はじめに翁長市長が「これからの那覇市のまちづくりについて」をテーマに、自らが提唱してきた「市民、事業者、行政による協働のまちづくり」の目的とその効果、そして、だれもが安心して安全にイキイキと暮らせる「那覇」を創るためにみな協力して何をするべきかについて、解りやすく講演を行いました。
6	市長講演の後には、佐藤学沖縄国際大学教授をコーディネーターにお招きし、NPO、自治会、企業との関係者、そして翁長市長をパネリストとして、協働の取り組みをテーマにパネルディスカッションが行われました。
7	市と公園ボランティア協定を締結し、弁ヶ岳公園の清掃を行っている鳥堀町自治会の仲本政博会長の「自分たちで公園を清掃するようになったら、より公園が身近に感じられるようになったし、みんなで協力することで、地域の連帯が強くなった」との発表や、「公民館と協力し地域の子どもたちが、地域で

協働のまちづくり つむぎ 那覇を紡ぐ



「協働」とは、まちづくりのために、市民・事業者・市民団体・行政などが、それぞれの特性を発揮しながら協力しあうことです。

「なはの日」に協働を考える

また、市と協働でレジ袋の減量や地域の清掃、植樹活動などに取り組んでいる琉球ジャスコの大浅田均開発部長は「協働は大変意義深いもの。今後もみんな力を合わせて、地域貢献していきたい」と決意を話していました。

協働のまちづくりを実践してきた各団体の取り組み報告を受け、佐藤教授は「協働のまちづくりを進めていくためには、自分たちの地域のこと自分たちでやるという『自治』に対する意識改革が必要」と訴えました。



協働のまちづくりに取り組んでいるNPO、自治会、企業のみなさんの報告の様子。